

伴走支援の「助走」としての 公募選考プロセス

村上 悟 （特定非営利活動法人 碧いびわ湖）

西村 俊昭 （公益財団法人 東近江三方よし基金）



×



東近江三方よし基金

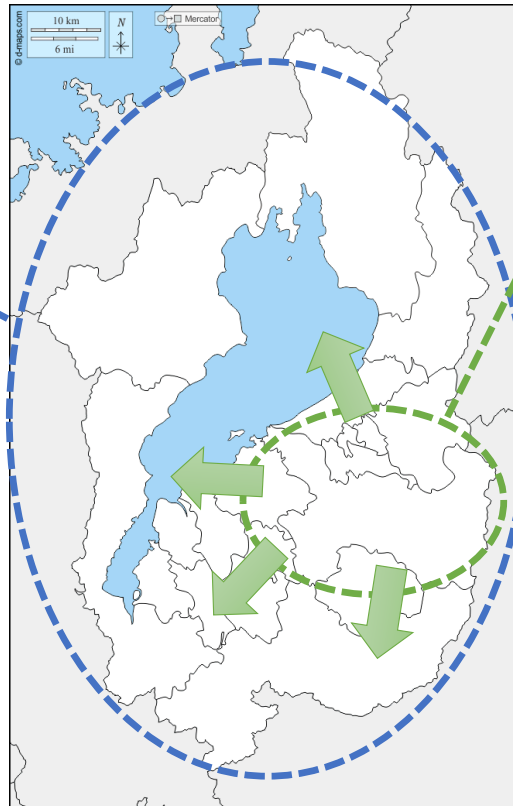
=

「びわ湖・三方よしローカルコモンズ」

コンソーシアムの構成



- 滋賀県域（人口 約140万人）
- 生協運動と環境運動を原点に住民協同自治に取り組むNPO
- 休眠預金活用事業は初めて



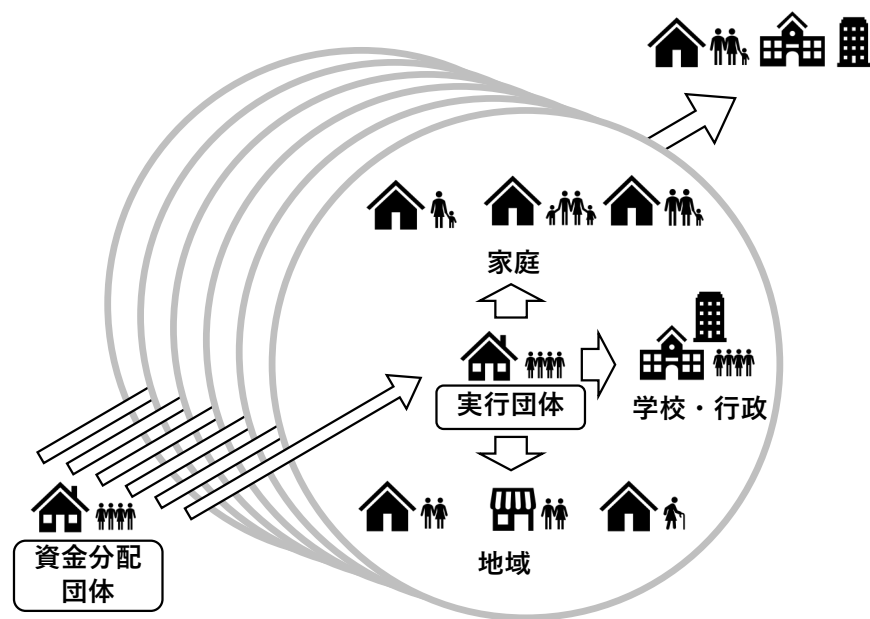
東近江三方よし基金

- 東近江市域（人口 約11万人）
- 「地域総働」で未来資本の創出に取り組むコミュニティファンド
- 休眠預金活用事業に2019年度からの経験と実績

私たちの事業概要

「あらゆる子どもの育ちを保障する地域総動」

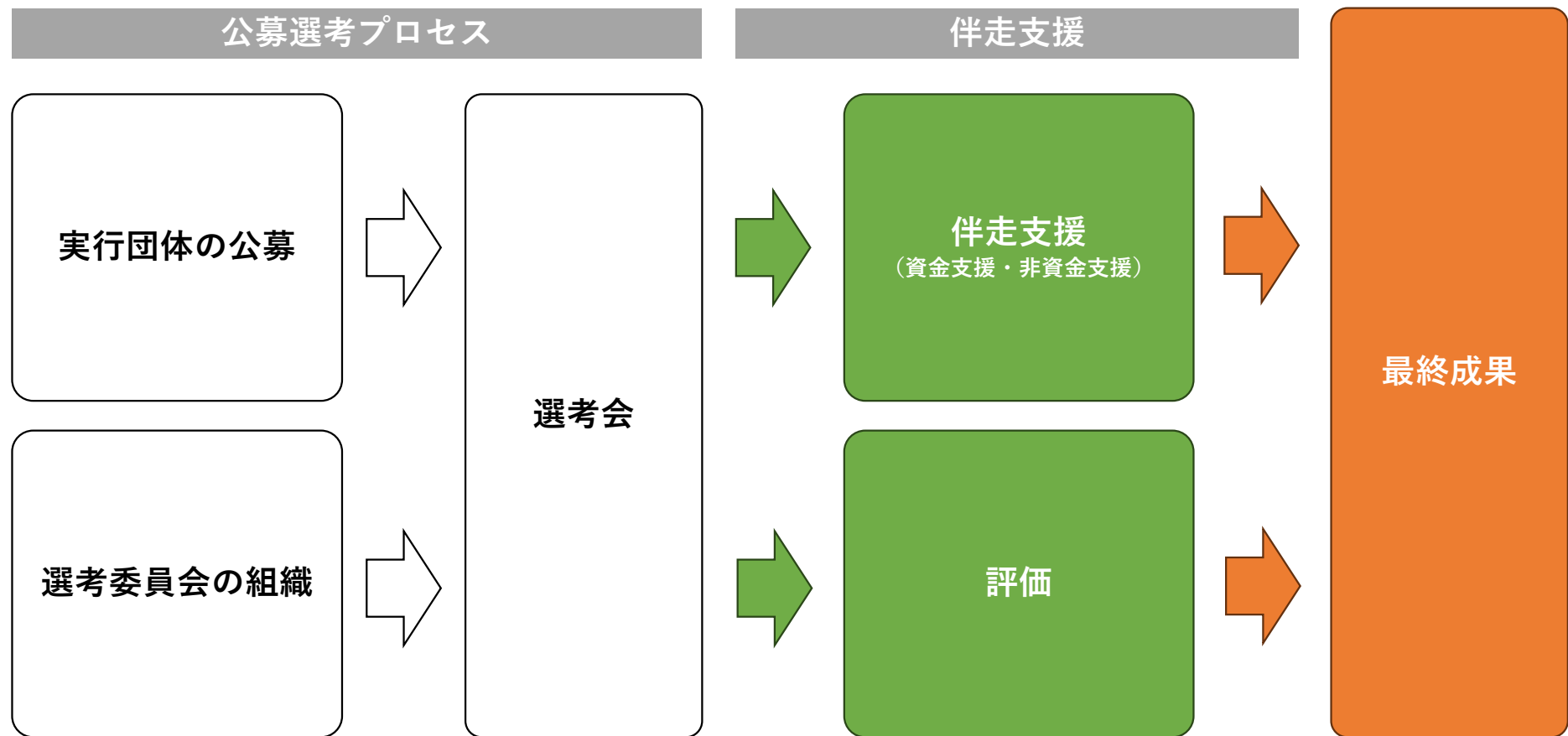
多様な人々の参画で、不登校でも孤立せず育ち学べる地域をつくる



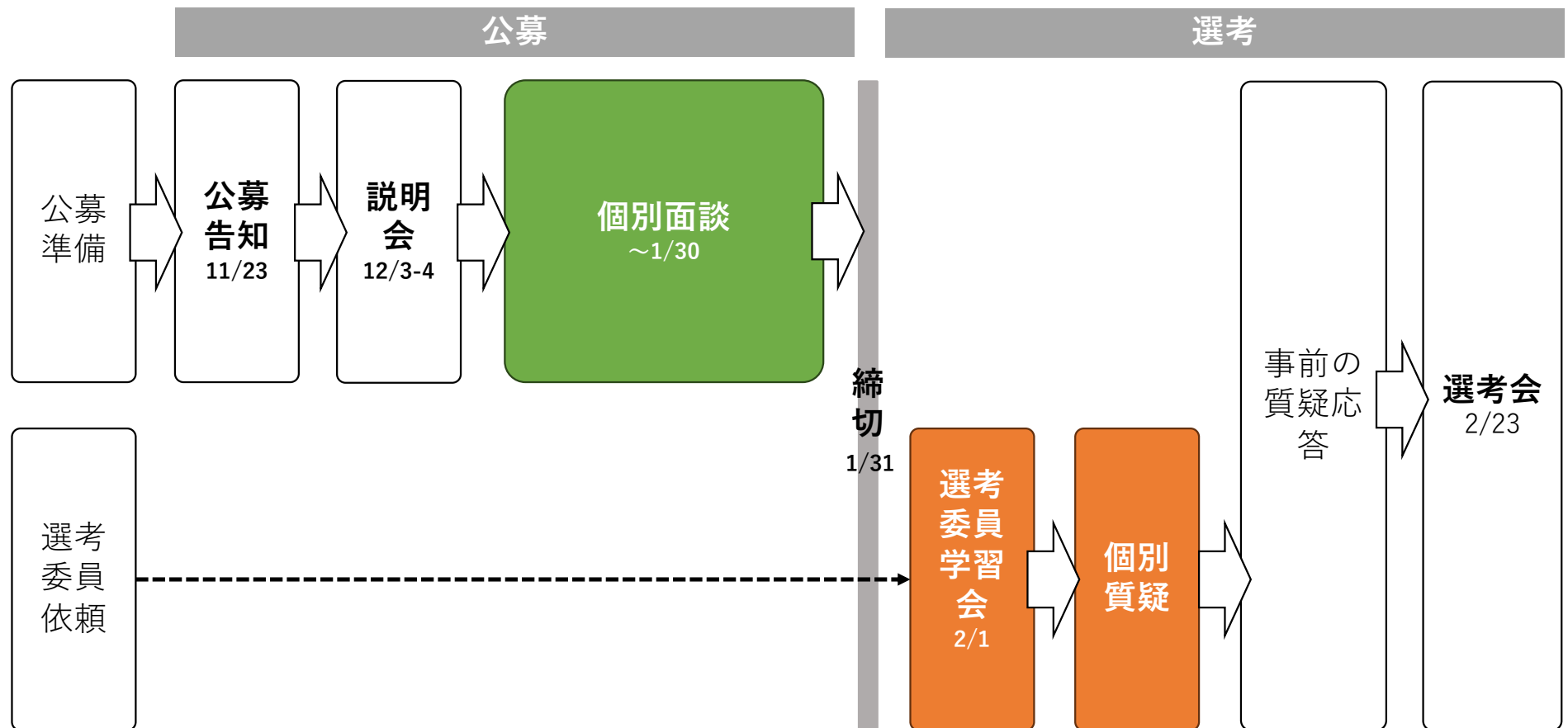
【各地域の目標状態】

実行団体の活動により
子ども・若者とその保護者の周囲に
多様な人々の生態系（コミュニティ）
が育まれている

公募選考プロセスは伴走支援の「助走」



公募選考の過程



個別面談

- 応募団体は原則としてすべて1回以上訪問
- 応募書類、ロジックモデルの作成等を支援
- 併せて、公募趣旨を伝えた

想定採択団体数	7団体	
問い合わせ団体数	29団体	※説明会参加・後日問い合わせ
面談を実施した団体数	14団体	
総面談回数	44回	※オンライン含む
応募団体数	16団体	
採択団体数	6団体	※採択団体の平均面談回数は4.5回



[illegible]

選考委員との事前研修会・個別質疑

<事前学習会>

- POから選考委員へ事業趣旨の共有
- 選考委員の知見共有と評価視点の確認



<個別質疑>

- POから選考委員への補足説明
- 選考委員からの質問への回答



選考委員会の構成 5人 学識経験者 3 名
各団体の役員各 1 名ずつ

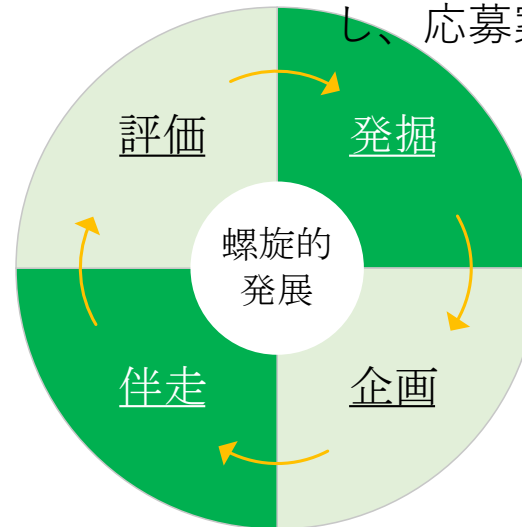
プログラムオフィサーの活動内容

4. 評価：事業完了時点

成果評価と新たな課題を可視化する。

1. 発掘：資金分配団体の応募申請前

日常の活動の中で地域の課題を把握し、応募案件を作成します。



3. 伴走：申請前事業実施中

実行団体の状況に合わせて、必要な支援の形を考えながら伴走する。

2. 企画：実行団体の公募期間中

実行団体の申請書の作成を支援しながら、想い、覚悟、力量を見極めます。

STEP 2 企画 実行団体の公募期間中

実行団体の申請書の作成を支援しながら、想い、覚悟、力量を見極めます。

- 申請書の作成支援により、想いを表現できるようサポートする
- 活動支援に加え、地域変革のための活動を支援することの理解を促す
- 社会課題→活動→成果目標→将来像を明確にする
- 実施団体の想い、覚悟、力量を見極める
- 不採択された団体とも連携を続ける